

# 第4次飯能市山間地域振興計画



東吾野地区 八徳の一本桜

飯 能 市

## ごあいさつ

飯能市では、山間地域に暮らす住民一人ひとりが  
主役として、それぞれの立場で役割を担い、市と  
協働のもとに活躍する地域を目指し、平成18年に  
飯能市山間地域振興計画を策定して以来、第3次  
飯能市山間地域振興計画まで、市民が主体的に取り  
組む公共的かつ公益的な事業活動により活気に  
満ちた地域コミュニティづくりをはじめ、活力を  
見出し、共にささえ合う心豊かな地域づくりに取り組んでまいりました。



しかし、高齢化の進行や若者・子どもの減少などにより地域コミュニティの維持が  
厳しくなるとともに、移動手段の確保や鳥獣被害など多くの課題が顕著となっております。

このため、第3次飯能市山間地域振興計画が令和4年度で最終年度を迎えるにあたり、引き続き山間地域振興に取り組むため、第4次飯能市山間地域振興計画を策定いたしました。

本計画を策定するにあたり、前計画の検証を行うとともに、地域の皆様と共に取り組む計画に加えて、山間5地区の地域の方々との意見交換など対話を通し、各地区での取組計画も策定しました。また、「第5次飯能市総合振興計画後期基本計画」等に基づく当市の山間地域振興に係る取組を「行政編」として、地域と行政のそれぞれの役割を明確にし、より効果的に山間地域振興に取り組むことができるよう掲載しております。

本計画では、基本理念を「魅力・活力・支えあい」とし、「いきいきと住み続けたい地域づくり」「魅力ある地域づくり」を進めてまいりますので、引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定に当たりまして、熱心なご審議を賜りました飯能市山間地域振興審議会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見、ご提言をいただきました。市民の皆様から感謝申し上げます。

令和5年3月

飯能市長

新井重治

# 目次

<b>1 第4次飯能市山間地域振興計画の策定に向けて</b>	<b>1</b>
(1) 本市の山間地域の現状	1
(2) 山間地域を取り巻く新たな状況	1
(3) 計画の目的	1
(4) 計画の位置づけ	2
(5) 計画の期間	2
(6) 計画の対象地域	2
(7) 持続可能な開発目標（SDGs）の達成との関連性	3
<b>2 第3次山間地域振興計画での取組状況</b>	<b>4</b>
(1) 山間地域振興支援事業	4
(2) 推進団体の状況	4
(3) 山間地域振興支援事業の取組状況	5
(4) 目標指標の達成状況	6
<b>3 第4次山間地域振興計画</b>	<b>8</b>
(1) 基本理念	8
(2) 計画の基本的な考え方	9
(3) 課題整理	10
(4) 山間地域振興支援事業	11
(5) 目標指標	12
<b>4 第4次山間地域振興計画地区別計画</b>	<b>13</b>
(1) 南高麗地区	13
(2) 吾野地区	16
(3) 東吾野地区	19
(4) 原市場地区	22
(5) 名栗地区	25
<b>5 行政編</b>	<b>27</b>
資料	33

## <表紙の写真>

飯能市大字長沢の八徳地区にある「八徳の一本桜」です。樹高12m、幹の太さ2.2mのソメイヨシノで、開花時には市内だけでなく近県からも多くの方が訪れています。

# 1 第4次飯能市山間地域振興計画の策定に向けて

---

## (1) 本市の山間地域の現状

本市は、都心から50km圏に位置し、都市地域や農業地域、山間地域など、様々な地域特性を有しており、その歴史・文化、人々の情感は、奥武蔵の豊かな自然とともに育まれてきました。

この中でも山間地域は、本市の75%を占める広大な森林とその間を流れる清らかな河川など、自然環境や地域資源に恵まれており、各地域における暮らしも、これまでの歴史・文化などから育まれた特色のある風土が息づいています。

しかし、高度経済成長期に生じた就労形態の変化や都市部への大規模な人口移動、核家族化の進行などの影響により、山間地域においては人口減少や少子高齢化が進んでいます。

こうした現象から、高齢者の買い物や移動の困難、空き家の増加、小・中学校の統廃合、公共交通の維持・確保などの課題が派生し、更に地域活動の担い手の固定化や人手不足により地域コミュニティの維持にも影響を及ぼしています。

## (2) 山間地域を取り巻く新たな状況

飯能市の交流人口は、平成28年の265万人から令和元年の410万人に大きく増加しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年は287万人まで落ち込みました。新型コロナウイルスの感染拡大は、山間地域に限らず大きな影響を及ぼしています。

このような中で、テレワークの導入やサテライトオフィスの設置等働き方改革が全国的に推進されたほか、人口密度の高い都会から地方へ移住する動きも見られ、また、観光の在り方についても「密」を避けた自然やアウトドア志向が注目されたことなどにより、名栗地域の交流人口は、令和元年の約33万人から令和3年には、約11万人増加し、約44万人になりました。山間地域への関心が高まりを見せている機会を捉え、必要な取組を行っていく必要があります。

## (3) 計画の目的

本市では、平成18年に「飯能市山間地域振興計画（計画期間：平成18年度～22年度）」を策定し、以来、第3次飯能市山間地域振興計画（計画期間：平成28年度～令和4年度）まで市民と市が共通の目標に向かってそれぞれの役割と責任を持ち、地域協働の下に山間地域における活力ある魅力的な地域づくりや、市民が公共的・公益的な事業活動に主体的に取り組み、これまで以上に活気に満ちた地域コミュニティづくりを進めてきました。

しかしながら、高齢化の進行や、若者・子どもの減少などにより地域コミュニティの維持が厳しくなるとともに、移動手段の確保や鳥獣被害など、多くの課題が顕著となってきました。

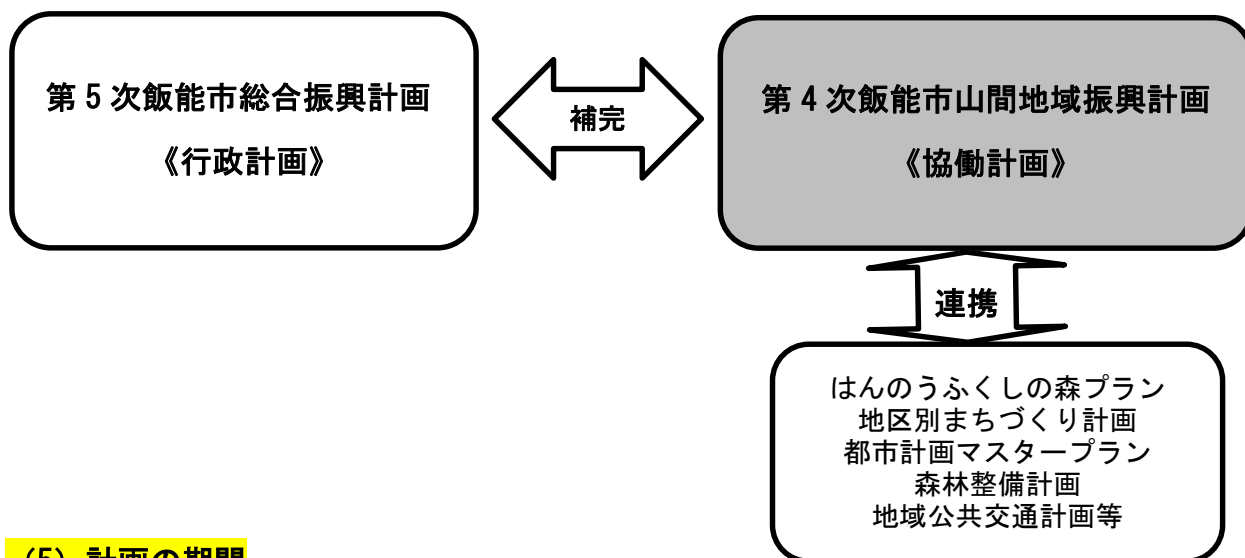
そこで、山間地域でのより良い暮らしを実現するべく、地域ならではの魅力と資源を活用し、磨きをかけ、地域住民がお互い助け合い、生きがいを持って生活していくための仕組みを構築し、賑わいと活力ある山間地域を創造するため、第4次飯能市山間地域振興計画を策定します。

#### (4) 計画の位置付け

本計画は、第5次飯能市総合振興計画の補完的役割を担うものとして位置付け、山間地域の振興を具体的に推進するため、市民と行政の協働という形態を踏まえた計画とします。

また、より効果的に計画を推進していくため、はんのうふくしの森プランや地区別まちづくり計画等との連携を図ります。

##### 【計画の位置付け】



#### (5) 計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から令和7年度までの3年間とします。

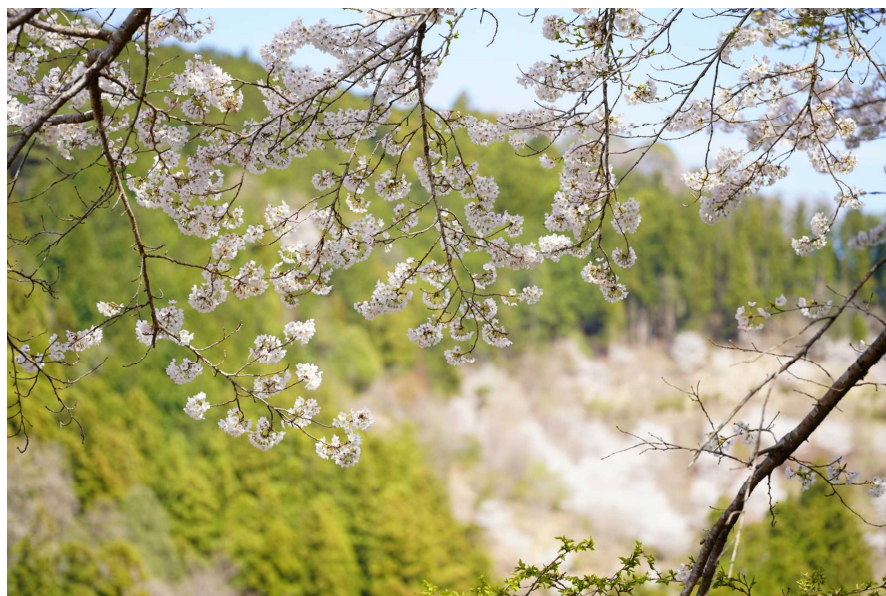
#### (6) 計画の対象地域

本計画の対象地域は、南高麗地区、吾野地区、東吾野地区、原市場地区及び名栗地区の5地区です。



## (7) 持続可能な開発目標（SDGs）の達成との関連性

本計画の推進に当たっては、「持続可能な開発目標（SDGs：エスディージーズ）」に掲げる以下のゴールの達成を意識していくものとします。



吾野の山桜と「花の山」

## 2 第3次山間地域振興計画での取組状況

### (1) 山間地域振興支援事業

山間地域における住民等の団体による自主的かつ主体的に取り組む様々な活動に対し、財政的支援を行いました。

#### ① 住み続けたい地域づくり事業

山間地域の人口減少や少子高齢化による課題の解決に取り組み、誰もが「住みたい」、「いつまでも住み続けたい」と思える地域環境づくりを支援しました。

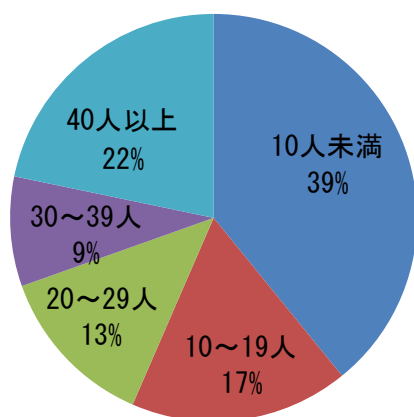
#### ② 魅力ある地域づくり事業

恵まれた自然環境や歴史文化など地域資源の発掘・活用を進め、山間地域の魅力を創出する取組や地域の特色を生かした取組、地域の取組をコミュニティビジネスに発展させ地域経済の好循環につながるような事業を支援しました。

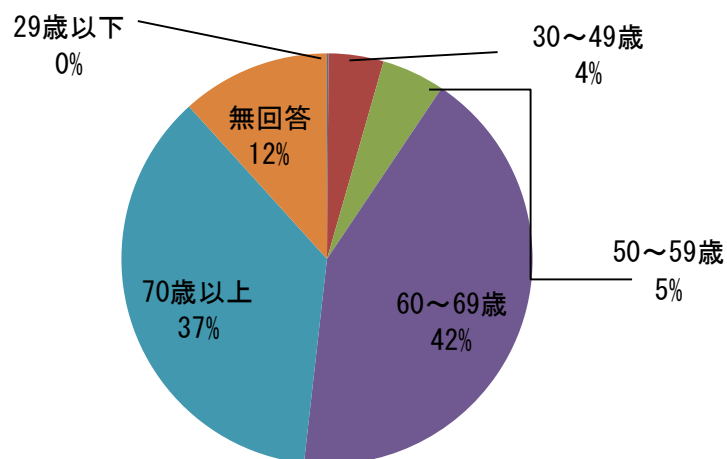
### (2) 推進団体の状況

推進団体の規模は、20人未満が56%と半数以上を占め、40人以上の団体は22%でした。また、団体会員の年齢構成は60歳以上が79%、60歳未満は9%と元気な高齢者の活躍の場となっていることがうかがえます。

会員数による団体規模



会員の年齢構成



### (3) 山間地域振興支援事業の取組状況

令和4年4月1日現在（単位：件）

	南高麗地区	吾野地区	東吾野地区	原市場地区	名栗地区	全 体
産業観光の促進	2	5	10	8	19	44
案内看板等の設置	0	2	1	1	0	4
景観整備・花木を植える事業	3	14	0	0	1	18
地域福祉関連	0	4	0	3	1	8
鳥獣被害対策	0	0	0	2	0	2
その他	1	0	0	0	1	2
合 計	6	25	11	14	22	78

#### 【住み続けたい地域づくり事業の実績】

地区名	年度	事業種別	事業名
吾野	H28, H29	景観整備	鎌倉街道とホタル 河鹿カエル鳴く萩の里づくり
	H30	地域福祉	「奥武蔵らくらく交通」運行開始
	H30	花木植栽	南自治会 地域の美化活動
東吾野	H29	案内看板	広葉樹花木による地域づくり促進事業
原市場	H28～H30	地域福祉	中藤子ども未来プロジェクト
	H30	鳥獣対策	鳥獣被害対策 原市場モデル「サル対策協力隊」
	R3	鳥獣対策	地域で助け合う鳥獣被害対策
名栗	H28	地域福祉	子どもを守る“まもるん君”普及啓発事業
	H28	産業観光	名栗湖国際野外美術展開催
	H28	花木植栽	シャクナゲ植樹
	H29～R1	産業観光	名栗街道の景観整備及び名栗川河川整備
	R3	その他	Nagurikko Village みんなをつなぐ畑プロジェクト

#### 【魅力ある地域づくり事業の実績】

地区名	年度	事業種別	事業名
南高麗	H28, H 29	景観整備	穴郷整備
	R2	景観整備	滝の入タブノ木周辺整備
	R1, R2	産業観光	奥武蔵ロングトレイル 105K 設置
	R3	その他	「飯能住まい」共同農園 HyggeFarm の運営及び南高麗防獣対策
吾野	H28～R3	花木植栽	花の山事業
	H28～H30	地域福祉	奥武蔵リバーサイドセラピーロード&パーク設置
	H29, H30	景観整備	植樹と間伐作業による災害跡地の景観整備
	H29～R1	花木植栽	伐採と花いっぱい運動
	H30, R1	案内看板	自然と歴史の宿 吾野宿賑わいづくり
	R1	産業観光	奥武蔵トレイルランニング普及講習会
	R1	産業観光	奥武蔵トレイルランニングスピードウェイ設置
R1	産業観光	奥武蔵ロングトレイル 100K 設置	



	R2, R3	産業観光	奥武蔵ロングトレイル 105K 設置
東吾野	H28	産業観光	遊休農地等地域資源を活用した地域の活性化で元気な地域づくり
	H28	産業観光	一本の木からはじめる家づくりプロジェクト
	H28	産業観光	誰でも出品できる地元農産物の開設&ふれあいまつり運営支援 売ってうれしい、買って楽しい西川昼市の開催
	H28	産業観光	観光客用ベンチ設置
	H30, R1	産業観光	奥武蔵ロングトレイル 105K 設置
	R2, R3	産業観光	地域での「味噌づくり事業」の伝承
	R3	産業観光	ユガテの広場 休憩用椅子の制作トイレ使用後手洗いタンク設置
原市場	H28~H30	産業観光	原市場竹鉢コミュニティ
	H29	産業観光	ジャガイモビュッフェ
	H29	産業観光	はらいちば農楽里 食楽里
	R1	産業観光	原市場グルメマップ「ハラメシ」作成
	R1	案内看板	中藤尾根道コース整備
	R2, R3	産業観光	奥武蔵ロングトレイル 105K 設置
名栗	H28	産業観光	川遊び体験イベントによる都市と山村交流観光資源の再生
	H28, H29	産業観光	「名郷味市」による地域コミュニティ活性化
	H29	産業観光	名栗街道の景観整備及び名栗川の河川整備
	H29~R3	産業観光	なぐり見聞食ブラさんぽ
	H29~R1	産業観光	名栗の魅力発信事業
	H29	産業観光	名栗雛めぐりによる地域コミュニティ活性化事業
	R2, R3	産業観光	奥武蔵ロングトレイル 105K 設置

#### (4) 目標指標の達成状況

第3次計画の目標指標のうち「山間5地区の定住意向」については、令和元年12月に実施した「飯能市市民意識調査」によると、「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」を合わせた割合は次ページのとおりで、山間5地区平均では、76.5%と目標を達成することができました。

また、「新たに山間地域振興事業に取り組む団体」では、第3次計画期間中に新たに取組んだ団体は28団体で、目標を達成することができませんでした。

地域ビジネスに向けた検討件数は、味噌づくり伝承事業等の取組がありましたが、目標の5件を達成することはできませんでした。

## ■目標指標

指標名	指標の考え方	目標 令和 2年度	目標への考え方	結果
山間5地域の定住意向	平成26年度実施の市民意識調査による「住み続けたい」、「できれば住み続けたい」の割合	75.0%	後期基本計画策定のための市民意識調査(令和元年12月)「住み続けたい」、「できれば住み続けたい」の割合75%を目指す。	南高麗 79.0% 吾野 69.0% 東吾野 75.8% 原市場 74.6% 名栗 84.2% 平均 76.5%
新たに山間地域振興事業に取り組む団体	第3次計画で新たに山間地域振興支援事業に取り組んだ団体数	30団体	第3次計画期間において、30団体を目指す。(平均6団体/年)	28団体
地域ビジネスに向けた検討件数	既存、新規を問わず、地域ビジネスに向けた取組件数	5件以上	各地区1件以上の取組を目指す。	2件



名栗地区 名栗雛めぐり「丸太雛」  
(なぐり見聞食ブラさんぽ実行委員会)

### 3 第4次山間地域振興計画

#### (1) 基本理念

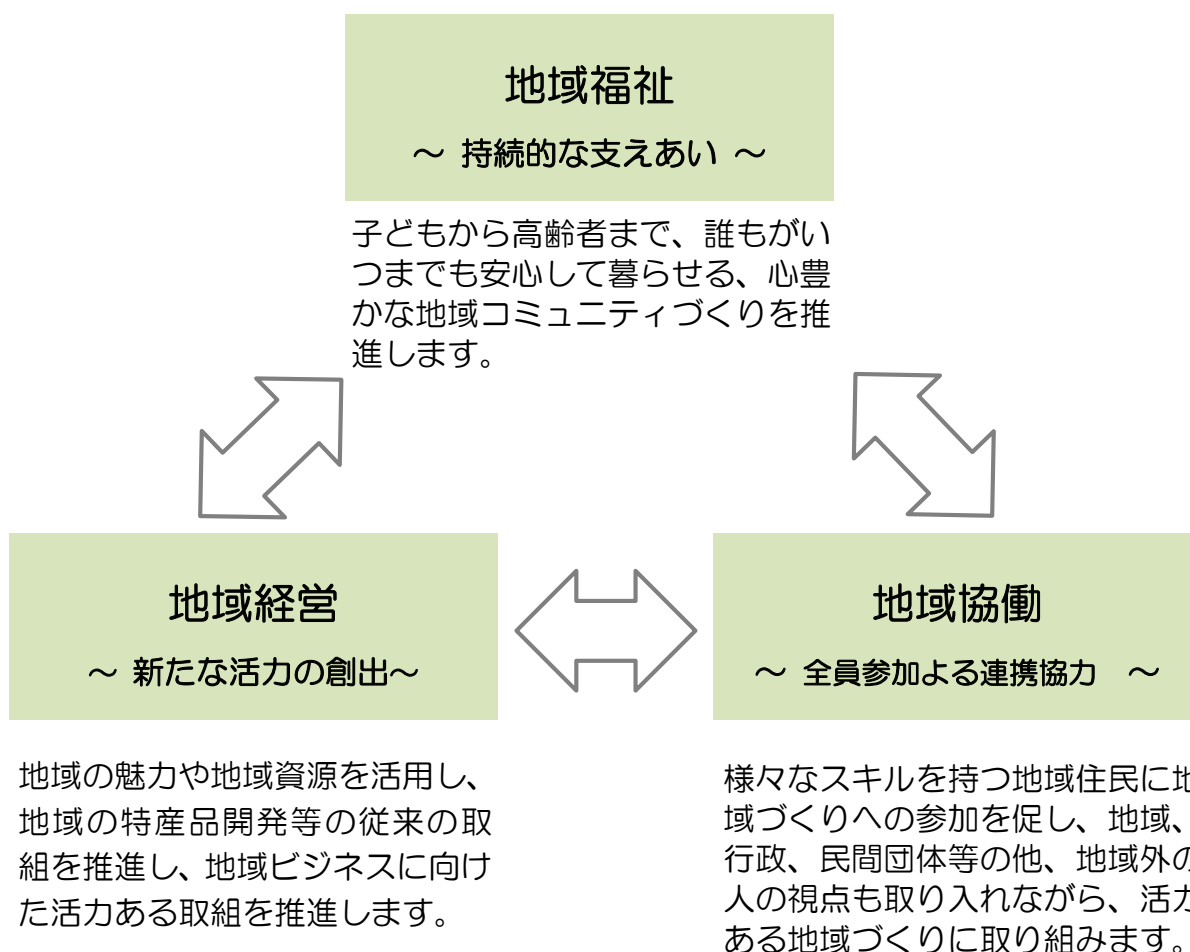
## 魅力・活力・支えあい

地域コミュニティを維持し、山間地域での持続的な暮らしを実現するためには、誰もが安心して日常を過ごせるような「支えあい」の仕組みを早急に構築することが重要です。

そのためには、地域に住む一人ひとりが地域づくりへ参画し、持てる能力を十分に発揮しながら、各人が連携・協力して「活力」ある環境づくりを進めることが必要です。

また、地域の「魅力」を、地域外の人との協力も得ながら改めて掘り起こし、磨きをかけ、発信していくことで、若者の流入促進及び流出抑制を促し、地域の担い手を確保していく必要もあります。

こうした活動を相互に連携させ、少しずつ着実に取組を前に進めることで、いつまでも暮らし続けられる山間地域の実現を目指します。

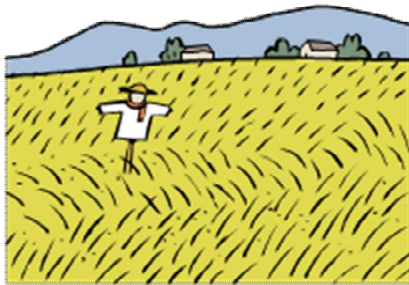


## (2) 計画の基本的な考え方

山間地域の振興については、「魅力(コミュニティの維持・向上)」、「活力(地域での事業収益)」、「支えあい(地域福祉の向上)」をイメージし、行政で行う事業のほか、山間各地区の住民が主体的に行動し、より住みやすく魅力ある地域づくりに取り組んできました。

今後も、行政と市民との協働により、公共的・公益的な事業活動に取り組むことを基本に、連携・協働による「いきいきと住みたい地域づくり」「魅力ある地域づくり」を進めます。

計画の推進に当たっては、行政が山間地域への様々な取組を積極的に支援するとともに、山間地域振興支援事業では、山間地域の市民が主体となった山間地域の資源や特性を活用した様々な活動に対し、財政的・技術的支援を行います。そして、多様な活動がお互いに連携することにより、地域協働から地域経営、そして地域福祉につながっていくような事業展開を目指します。



**魅力**

**コミュニティの維持・向上**



**活力**

**地域での事業収益**



**支えあい**

**地域福祉の向上**



### (3) 課題整理

第4次山間地域振興計画の策定にあたり、山間5地区で地区懇談会を開催し、意見交換やグループワークを行いました。また、山間地域振興審議会においても意見をいただき、地域の現状を強み、弱み、チャンス、脅威に区別し、課題の抽出を行い、山間5地区での共通した現状と課題について下記のとおり結果を整理しました。

#### 【現 状】

強み	弱み	チャンス	脅威
<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな自然環境</li> <li>○人とひとのつながりの強さ</li> <li>○豊かな歴史文化</li> <li>○ハイキングコース</li> <li>○多様な地域資源、観光資源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空き家の増加</li> <li>○管理されていない山林・農地</li> <li>○交通の便が悪い</li> <li>○買い物困難</li> <li>○地域の担い手不足</li> <li>○未給水区域がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハイキング、散策などに適している</li> <li>○豊富な森林資源</li> <li>○移住、田舎暮らしの傾向</li> <li>○空き家の活用</li> <li>○都心からのアクセスの良さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○免許返納による交通手段の不安</li> <li>○土砂災害 自然災害の発生</li> <li>○放置山林、農地</li> <li>○有害鳥獣被害</li> <li>○不法投棄</li> </ul>

#### 【課 題】

定住環境づくり	自然環境の保全と活用	交流促進	産業振興	情報発信
<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の維持確保</li> <li>○未給水地域対策等の生活環境の整備</li> <li>○地域の防災力の向上</li> <li>○互いに支え合う地域福祉の推進</li> <li>○移動・買物支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林や河川などの自然環境の保全</li> <li>○森林景観の維持・管理・活用</li> <li>○自然環境を活用した地域の魅力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域特性を生かした交流促進</li> <li>○地域資源（歴史・文化）を生かした魅力ある地域づくり</li> <li>○空き家の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○有害鳥獣対策</li> <li>○森林資源を生かした新たな森林産業の創造</li> <li>○地域資源を生かした特産品の開発</li> <li>○遊休農地等の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域情報の発信</li> <li>○地域の魅力情報の収集</li> </ul>

#### (4) 山間地域振興支援事業

地域課題を解決するため、本計画では、山間地域の強みやチャンスを生かし、弱みや脅威を克服することについて市と地域が協働により推進します。

地域住民がお互い助け合い、生きがいを持って生活していくための仕組みづくりや賑わいと活力ある山間地域の創造を図ります。第4次山間地域振興計画においては、空き家の利活用に関する事業を新たに加え、地域の活性化や定住促進につなげます。

これらの事業を進めるため、山間地域における山間地域振興支援事業実施団体による自主的かつ主体的に取り組む様々な活動に対し、財政的、技術的支援を行います。

##### ① いきいきと住みたい地域づくり

人口減少や地域住民の高齢化により地域コミュニティの維持だけでなく、公共交通や小・中学校の維持など様々な問題が生じています。

山間地域の人口減少・少子高齢化に対応するため、若者世代をはじめとする転出者を抑制するとともに、山間地域の新たな定住人口確保を目指し、「住みたい」、「いつまでも住みたい」と思える地域環境づくりに取り組む事業を支援します。

事業項目	主な取組例
いきいきと住みたい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の未来を担う子どもたちや地域の方のシビックプライドの醸成</li><li>・地域ぐるみの子育て支援</li><li>・買い物困難者対策</li><li>・移動交通手段の検討</li><li>・安心して暮らせる地域づくり</li><li>・有害鳥獣対策</li></ul>

##### ② 魅力ある地域づくり

山間地域には、豊かな自然環境や歴史・文化資源が多くあり、こうした地域資源・地域特性を生かした魅力ある地域づくりを進めていくことが重要です。地域の特色を生かした取組や地域コミュニティの取組を地域ビジネスに発展させ、地域経済の好循環につながる事業を支援します。

事業項目	主な取組例
魅力ある地域づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・エコツアーによる地域づくり</li><li>・西川材による商品づくり</li><li>・観光事業者との連携</li><li>・地域の魅力を生かしたイベントの検討と開催</li><li>・農産加工品づくり、販売促進</li><li>・自然・歴史・文化の活用による魅力づくり</li><li>・地域ビジネスへの展開</li></ul>

### ③ 空き家の利活用に関する事業

山間地域の空き家の増加に伴い、「空き家」を地域の有効資源として捉え、活用を図るため、地域の活性化や定住促進につながる事業を支援します。

事業項目	主な取組例
空き家の利活用に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家情報の収集</li> <li>・ 空き家を活用した商店の開設</li> <li>・ 空き家を活用したイベントの開催</li> <li>・ 空き家を活用した高齢者支援</li> <li>・ 空き家を活用した子育てサロン</li> </ul>

### ④ アドバイザー派遣事業

地域が抱える課題解決や魅力向上を図るため専門的な知識を有するアドバイザーを派遣します。

## (5) 目標指標

本計画の目標指標は、「山間5地区の定住意向」や「山間地域振興支援事業の取組件数」、「地域ビジネスに向けた取組件数」を目標とします。

実施期間：令和5年度～令和7年度

指標名	指標の考え方	現況 令和4年度	目標への考え方	目標 令和7年度
山間5地区の定住意向	令和元年度実施の市民意識調査による「住み続けたい」、「できれば住み続けたい」の割合	南高麗 79.0% 吾野 69.0% 東吾野 75.8% 原市場 74.6% 名栗 84.2%	市民意識調査「住み続けたい」、「できれば住み続けたい」の割合 76.5%以上を目指す。	5地区 平均 76.5% 以上
山間地域振興支援事業の取組件数	山間地域振興支援事業件数	10件/年	13件/年	39件
地域ビジネスに向けた取組件数	既存、新規を問わず、地域ビジネスに向けた取組件数	2件	各地区1件以上の取組を目指す。	5件

## 4 第4次山間地域振興計画 地区別計画

山間地域においては、各地区の特性が異なることから、地域に合った効果的な事業を選択し、地域間の連携なども図りながら、互いに支えあえる地域づくりを目指すため、地区懇談会においていただいた意見を元に次のとおり地区別計画を策定します。

### (1) 南高麗地区

#### ①地域の特性

南高麗地区は市の南西部に位置し、東西約9Km、南北約4kmの細長い形状になっています。多種多様な植生の森林が広がり、一級河川の直竹川と成木川が流れ、カタクリやイカリソウの群生地、モリアオガエルの生息地があり、歴史的文化遺産として長光寺、岩井堂観音、石灰焼場跡などがあります。

上直竹上分地区で開催される「お散歩マーケット」には、市内外から多くの方が訪れて交流を楽しんでいます。また、地域には、地区行政センターをはじめ、福祉センター、診療所など公共施設も多くあります。市街地に近い地域であり、都内への通勤・通学も比較的容易なことから、近年は“農のある暮らし”「飯能住まい」制度を利用した移住者により、少しずつではありますが人口が増加しています。

一方で、心配される要因として、土砂災害や雪害などの自然災害の発生や大規模開発による生活環境の悪化、野生動物による農作物等の食害などがあります。

強み	弱み	チャンス	脅威
<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな自然環境</li> <li>○恵まれた公共施設・機関</li> <li>○整備された高速大容量通信網</li> <li>○鉄道始発駅や高速道路ICまでが近い</li> <li>○市内屈指の交流事業である「お散歩マーケット」の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空き家や単身世帯の増加</li> <li>○未給水地域の存在</li> <li>○十分な管理・活用がなされていない農地・山林・河川の拡大</li> <li>○僅かしかない商業・観光施設、就労先、特産品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農のある暮らし「飯能住まい」制度や空き家の活用による移住者の増加</li> <li>○路線バス運行再編による公共交通機関の維持</li> <li>○民間の医療・福祉団体による無料移送サービスの継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土砂災害や雪害など、自然災害の発生</li> <li>○大規模開発による人為災害の発生や生活環境の悪化</li> <li>○有害鳥獣による農作物等の食害、日常生活への支障</li> </ul>



## ②地域課題

少子高齢化などから、生活の足を確保するための公共交通の維持・確保や、地域づくりの担い手を確保するための人材の発掘・育成などが大きな課題となっています。また、土砂災害などの自然災害の発生に備えるための地域の防災力の向上や農作物や日常生活への被害を防止するための有害鳥獣対策が必要です。こうしたことに対応するため、地域住民がお互いに支えあい住み慣れた地域で安心して生活するための地域福祉推進組織「ささえあい南高麗」の活動の一層の充実が求められています。

定住環境	自然環境の保全と活用	交流促進	産業振興	情報発信
<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の維持確保</li> <li>○市道や未給水地域対策等の生活環境の整備</li> <li>○地域の防災力の向上</li> <li>○互いに支え合う地域福祉の推進</li> <li>○移動・買物支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林や河川などの自然環境の保全</li> <li>○森林景観の維持・管理・活用</li> <li>○自然環境を活用した地域の魅力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民と移住者との対話・交流促進</li> <li>○地域資源の創造、発掘</li> <li>○地域資源（歴史・文化）を生かした魅力ある地域づくり</li> <li>○空き家の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○有害鳥獣対策</li> <li>○森林資源を生かした新たな森林産業の創造</li> <li>○地域資源を生かした特産品の開発</li> <li>○新たな観光資源の発掘</li> <li>○遊休農地等の活用</li> <li>○光ファイバー網の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の魅力情報の収集</li> <li>○情報の活用方法の共有化</li> <li>○地域に密着した情報発信</li> <li>○地域情報伝達手段の整備</li> </ul>

## ③地域課題への主な取組

南高麗地区の特徴である“農のある暮らし”「飯能住まい」制度による転入者と、既に住んでいる地域住民との間の対話・交流を通じた地域づくりの担い手の発掘・育成を進めながら「ささえあい南高麗」やまちづくり推進委員会などとの連携を深め、活動を支援します。

また、遊休農地などの活用を促進し「農」を軸とした地域活動の活性化を図るとともに、電気柵の普及によるシカ・イノシシ対策やサルへの追い払いなど、地域ぐるみの鳥獣被害対策に取り組めます。

団体の活動を紹介するサイトの運営など、様々な手段で地域の魅力を内外に発信し、南高麗地区への関心を呼び起こすとともに、豊かな里山の自然や地域の歴史、文化を生かしたウオーキング事業やエコツアー等の開催による交流人口の増加に努めます。

飯能市乗合ワゴンをはじめとする公共交通の利用につなげる事業を実施し、地域の大切な「足」である公共交通の維持・拡充を図ります。

市街地からの距離が比較的近く、観光やイベントに訪れやすい地域であることから、空き家を活用した事業を実施します。

事業項目	主な取組
いきいきと住みたい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の維持確保（利用促進）事業の実施</li> <li>○移動手段の維持・確保、買い物困難者対策</li> <li>○農のある暮らしを実現する「飯能住まい」制度転入者との交流促進</li> <li>○有害鳥獣対策</li> </ul>
魅力ある地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エコツアーによる地域づくり</li> <li>○西川材による商品づくり</li> <li>○森林を活用した地域の魅力づくり</li> <li>○農産加工品づくり、販売促進</li> <li>○地域の魅力を生かしたイベントの検討と開催</li> <li>○自然・歴史・文化の活用による魅力づくり</li> </ul>
空き家の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空き家を活用した商店の開設</li> <li>○空き家を活用したイベントの開催</li> <li>○空き家を活用した居場所づくり</li> </ul>



南高麗地区まちづくり推進委員会による活動

## (2) 吾野地区

### ①地域の特性

吾野地区は、市の北西部に位置し、国道 299 号線が地域を縦断しており、地域内には西武鉄道の吾野駅、西吾野駅、正丸駅の 3 駅があるため、東京方面へのアクセスもよく週末には多くのハイキング客が訪れています。

豊かな森林と清流高麗川が流れるなど、自然環境に恵まれた地域で、ハイキングや登山などで多くの人を訪れる伊豆ヶ岳、正丸峠、刈場坂峠などがあり、歴史的な文化遺産としては、高山不動尊、子の権現、旧吾野宿などがあります。

平成 31 年 4 月、東吾野小学校、西川小学校及び吾野小学校の 3 つの小学校を統合し、これに合わせて西川小学校及び吾野中学校の施設を活用した施設隣接型小中一貫校「奥武蔵創造学園」が開校し、小規模特認校として特色ある教育を行っています。

また、地域の高齢化が顕著なことから、高齢者の外出支援として「らくだ号」や自家用有償旅客運送事業である「奥武蔵らくらく交通」の運行が行われています。

一方、住宅地に近接している急峻な山林の土砂災害の危険性や、少子高齢化による人口減少と地域の担い手不足、一人住まいの増加などが課題となっています。

強み	弱み	チャンス	脅威
<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな環境、自然が多い</li> <li>○交通機関の良さ（便が良い）</li> <li>○住民同士のコミュニケーションの良さ</li> <li>○地価が低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢化・少子化</li> <li>○様々な地域組織を担う人手不足</li> <li>○買い物が困難</li> <li>○林業の低迷</li> <li>○未給水地域がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハイキングや散策に適する</li> <li>○小規模特認校の存在</li> <li>○鉄道の利便性</li> <li>○らくだ号の運行</li> <li>○光ファイバー網の活用</li> <li>○旧吾野小学校跡地利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土砂災害・がけ崩れの危険性</li> <li>○畑や山林の放置による荒廃</li> <li>○免許返納による交通手段の不安</li> <li>○交通騒音</li> <li>○鳥獣被害</li> </ul>

### ②地域課題

人口減少と高齢化による地域活動の担い手不足や、空き家の増加などから、地域でお互いに支え合う地域福祉活動の充実が重要となっています。また、高齢などの理由により免許を返納した際に集落から駅まで距離があるため、移動手段が無くなってしまっておそれがあり、生活の足を確保するために奥武蔵らくらく交通をはじめとした地域内の移動手段や鉄道路線の維持・確保のための取組も必要です。

地区内には土砂災害警戒区域があり、大雨や台風により土砂災害などが発生する恐れがあります。また、住民の高齢化や林業の低迷などの理由により手入れの行き届かない畑や山林が増えており、鹿や猿などの有害鳥獣による農作物の被害も課題となっています。

定住環境づくり	自然環境の保全と活用	交流促進	産業振興	情報発信
<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の維持確保</li> <li>○移動・買物支援</li> <li>○地域の防災力の強化</li> <li>○互いに支え合う地域福祉の推進</li> <li>○市道や未給水地域対策・交通騒音対策等の生活環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林や河川などの自然環境の保全</li> <li>○森林景観の維持・管理・活用</li> <li>○自然環境を活用した地域の魅力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域特性を生かした交流促進</li> <li>○地域資源（歴史・文化）を生かした魅力ある地域づくり</li> <li>○空き家の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○林業環境の整備と林業の活性化</li> <li>○有害鳥獣対策</li> <li>○遊休農地等の活用</li> <li>○光ファイバー網の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の魅力情報の収集</li> <li>○情報の活用方法の共有</li> <li>○地域に密着した情報発信</li> <li>○地域情報伝達手段の整備</li> </ul>

### ③地域課題への主な取組

少子高齢化が顕著なことから、高齢者の移動手段の確保や買い物支援など、互いに支え合う地域福祉活動に取り組みます。

「奥武蔵創造学園」の特色ある教育活動と連携し、地域活性化を進めるとともに、交流人口の増加や定住人口の増加に資する取り組みを実施します。

森林・林業の関係団体などと連携し、西川材を利用した特産品づくりなどにより、林業の再生に取り組み、就業機会の創出を図ります。

農作物を有害鳥獣から守るために、地域で連携して有害鳥獣の駆除や電気柵などを利用した農作物への被害防止に取り組みます。

吾野の魅力を感じて訪れた方などが、空き家を利用して定住につながる取組が求められるため、空き家を利活用する事業を実施します。

事業項目	主な取組
いきいきと住みたい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域ぐるみの子育て支援</li> <li>○移動手段の維持・確保</li> <li>○買い物困難者対策の検討</li> <li>○安心して暮らせる地域づくり</li> <li>○有害鳥獣対策</li> <li>○林業の再生と自然景観の創出</li> </ul>
魅力ある地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○西川材による商品づくり</li> <li>○森林を活用した地域の魅力づくり</li> <li>○地域の魅力を生かしたイベントの検討と開催</li> <li>○自然・歴史・文化の活用による魅力づくり</li> </ul>
空き家の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空き家を活用した商店の開設</li> <li>○空き家を活用したイベントの開催</li> <li>○空き家を活用した居場所づくり</li> </ul>



吾野地区 花桐獅子舞（市指定無形民俗文化財）

### (3) 東吾野地区

#### ①地域の特性

東吾野地区は、市の北西部に位置し、清流である高麗川、顔振峠をはじめ、美しい里山の風景が広がるユガテなど豊かな森林の自然環境に恵まれ、歴史文化遺産では、福德寺、長念寺、諏訪神社等があるほか、ふれあい農園、西川材を使用した木工工房などにも市内外から観光に訪れており、風光明媚な風景や自然と親しみながら歩けるハイキングコースもあり、さまざまな体験ができる地区となっています。

住民同士のつながりが強い地域であり、ボランティア意識が高い住民も多いため、「ふくしの森・東吾野」やその他の関係団体の活動が盛んです。

鉄道・国道が通っているため、市街地及び都内への通勤、通学も可能です。また、地区行政センター、医療介護センターなどの公共施設や、教育施設としては旧東吾野小学校跡地を利用した「わせがく夢育高等学校」や施設隣接型小中一貫校、小規模特認校として特色ある教育を行っている「奥武蔵創造学園」があります。

しかし、心配される要因としては、土砂災害等の自然災害のリスクや後継者不足による農地・林地の放置、有害鳥獣の増加による農作物等の食害、山林等への不法投棄などがあります。

強み	弱み	チャンス	脅威
<ul style="list-style-type: none"> <li>○風光明媚で豊かな自然と歴史文化</li> <li>○ハイキングコースや寺社仏閣などが近く、ハイキング客が多い</li> <li>○元気な高齢者が多い</li> <li>○住民同士のつながりが強く、ボランティア活動・福祉活動が盛ん</li> <li>○ジャガイモ、そば等の販売が好調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少、少子高齢化に伴う過疎の進行により地域活動の継続が困難</li> <li>○商店、企業、金融機関が少なく生産性・利便性が低い</li> <li>○土砂災害区域に指定され、家が自由に立てられず、土地の活用が困難</li> <li>○国道299号線の事故、騒音</li> <li>○ハイキングコース、河川敷等の維持管理ができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トレイルラン、ハイカーの増加</li> <li>○奥武蔵創造学園・わせがく夢育高校の開校</li> <li>○田舎暮らしを求める傾向</li> <li>○西川材などの地場産業</li> <li>○都心からのアクセスの良さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然災害、土砂災害のリスク</li> <li>○後継者不足・維持管理不足に伴う耕作放棄地、放置山林の増加</li> <li>○鳥獣被害の増加</li> <li>○山林・河川への不法投棄</li> </ul>

## ②地域課題

元気な高齢者が多く、外部からの交流人口が多い地区のため、山林ボランティア等を希望する人や地域をつなぐコーディネーターの育成が必要です。

アウトドア志向、スローライフ志向の人々が増えてきているため、それらを地域課題（例えば地区の西川材の担い手、山林・耕作地、河川の維持管理）の解決の担い手につなげる施策の検討が必要です。また、耕作放棄地や林業の衰退から荒廃山林への不法投棄の増加、有害鳥獣対策も重要な課題です。

小規模特認校である奥武蔵創造学園やわせがく夢育高等学校でこの地区に魅力を感じ、転入を希望する人がいる一方で、地域の多くが急峻な山林であり、住宅建設に適した土地が少ないことから、新たな住宅の建設は多くありません。

高齢化による移動・買物支援では、鉄道は通っていても地域内の集落が点在しているため、駅に出るまでの地区を細やかに走るような公共交通手段の確保を検討する必要があります。

定住環境	自然環境の保全と活用	交流促進	産業振興	情報発信
<ul style="list-style-type: none"> <li>○移動・買物支援</li> <li>○互いに支え合う地域福祉の推進</li> <li>○市道や未給水地域対策等生活環境の整備</li> <li>○地域住民の協働意識の一層の充実</li> <li>○子どもの地域教育の充実</li> <li>○地域の防災力の強化</li> <li>○騒音のない安全安心な環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林や河川などの自然環境の保全</li> <li>○森林景観の維持・管理・活用</li> <li>○山林・河川への不法投棄対策</li> <li>○自然を生かした地域の魅力向上</li> <li>○エコツアーの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空き家の有効活用</li> <li>○地域資源(歴史・文化)を生かした魅力ある地域づくり</li> <li>○地域特性を生かした交流促進</li> <li>○高齢者の活動拠点づくり</li> <li>○わせがく夢育高校との交流と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○有害鳥獣対策</li> <li>○地域資源を生かした特産品の開発とPR、販路の拡大</li> <li>○遊休農地等の活用</li> <li>○山林ボランティアの活用</li> <li>○自然環境を生かした観光地としての魅力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の魅力情報の収集</li> <li>○情報の活用方法の共有化</li> <li>○地域に密着した情報発信</li> <li>○地域情報伝達手段の整備</li> </ul>

### ③地域課題への主な取組

地域の課題である買物支援や移動手段の確保について、「ふくしの森・東吾野」やその他の関係団体等と連携し取り組みます。また、荒廃した山林の管理や耕作放棄地を活用した事業を実施し、不法投棄パトロール、農作物の鳥獣被害防止などの地域の課題の解決に取り組みます。

また、豊かな自然、歴史文化遺産を生かしたエコツアー等により、アウトドアやスローライフ志向の人々に地区に親しんでもらうことで、地域への移住促進を図ります。

西川材やじゃがいも、蕎麦などを生かした新たな特産品を開発し、地域の魅力の効果的な情報発信を行います。

わせがく夢育高等学校と連携した事業を実施し、学生たちを通じて東吾野の魅力を伝えていきます。これにより東吾野に魅力を感じた人や林業に興味がある人などが定住できるよう空き家の活用を進めます。

	主な取組
いきいきと住みたい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○有害鳥獣対策事業の取組</li> <li>○移動手段の維持・確保</li> <li>○買物困難者の支援</li> <li>○地域防災体制の強化と安心できる見守り活動</li> <li>○地域福祉への活動支援</li> </ul>
魅力ある地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○わせがく夢育高等学校との連携による賑わいづくり</li> <li>○地域特産品の販売とブランド化</li> <li>○エコツーリズムの推進</li> <li>○西川材製品のPRと販路拡大</li> <li>○森林を活用した地域の魅力づくり</li> <li>○地域の魅力を生かしたイベントの検討と開催</li> <li>○山間地域の特性を生かした教育の推進</li> <li>○地域の自然・歴史・文化等の情報発信</li> </ul>
空き家の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空き家を活用した商店の開設</li> <li>○空き家を活用したイベントの開催</li> <li>○空き家を活用した居場所づくり</li> </ul>



東吾野地区 わせがく夢育高等学校 夏野菜苗植え付け体験  
「わせがく夢育高等学校・地域」連絡委員会



## (4) 原市場地区

### ①地域の特性

原市場地区は、山間地域の中央部に位置し、山間地域の中では比較的平坦な土地が多くあることから、バブル期には住宅開発が多く行われ人口1万人を有していましたが、急速な少子高齢化により、現在はその多くが高齢世帯や空き家になっており、地区の課題となっています。

地区内には保育所、小学校、中学校、福祉センター、地区行政センターなどの公共施設が点在し、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンターなどの商業施設もあります。歴史的文化遺産としては、竹寺、白髭神社、金錫寺などがあり、豊かな自然環境の中に里山の風景があり、自然との一体感も楽しむことができます。

生活に必要な施設も多く、空き家の活用等を行うことにより、移住定住のチャンスにもつながります。

強み	弱み	チャンス	脅威
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然に恵まれている</li> <li>○水がきれい（蛍の住む環境）</li> <li>○里山の風景</li> <li>○商店や施設が自然の中にある</li> <li>○地盤が固い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人暮らし高齢者の増加</li> <li>○空き家の増加</li> <li>○交通の便が悪い</li> <li>○川幅が狭く氾濫の危険がある</li> <li>○木材が活用されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地価が安い</li> <li>○アウトドアを手軽に楽しめる</li> <li>○空き家の活用（リフォーム等）</li> <li>○ハイキングに適した場所が多い</li> <li>○豊富な森林資源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鳥獣被害（農作物・水質）</li> <li>○サイクリング自転車の交通安全</li> <li>○山の手入れ不足</li> <li>○不法投棄問題</li> <li>○空き家の増加</li> </ul>

### ②地域課題

単身高齢者や高齢世帯の増加は、地域のコミュニティが低下するため、互いに支える地域福祉の推進が不可欠であり、地域住民が協働意識をより高め、交流を促進するためには、原市場地区社会福祉協議会の活動の充実が重要です。

また、鳥獣被害による農作物被害や自然災害による川の氾濫などの脅威もあり、地域コミュニティを強化し地域の防災力を高めることも重要です。

空き家の増加は、自然災害などの脅威により二次災害が懸念され、防犯上の問題もあるため、空き家の有効活用を進める必要があります。

豊かな自然や便利な生活環境を発信することで、地域外の人を呼び込み、高齢化による地域活動の担い手不足や生活の足となる公共交通の維持・確保につなげる必要があります。

定住環境	自然環境の保全と活用	交流促進	産業振興	情報発信
<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の維持・確保</li> <li>○地域の防災力の向上</li> <li>○互いに支え合う地域福祉の推進</li> <li>○地域住民の協働意識の一層の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林や河川などの自然環境の保全</li> <li>○森林景観の維持・管理・活用</li> <li>○山林への不法投棄対策</li> <li>○自然環境を活用した地域の魅力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源の創造、発掘</li> <li>○地域特性を生かした交流促進</li> <li>○地域資源（歴史・文化）を生かした魅力ある地域づくり</li> <li>○空き家の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○有害鳥獣対策</li> <li>○地域資源を生かした特産品の開発</li> <li>○新たな観光資源の発掘</li> <li>○遊休農地等の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の魅力情報の収集</li> <li>○情報の活用方法の共有化</li> <li>○地域に密着した情報発信</li> <li>○地域情報伝達手段の整備</li> </ul>

### ③地域課題への主な取組

地域資源を活用した新たな特産品の研究・開発や、自然環境・川のある風景が美しい原市場の自然を生かしたエコツアーなど、地域の魅力を生かした事業を行うことにより、地域の認知度の向上を図ります。

公共交通機関と地域が連携して、公共交通を利用した事業の実施や、バスの待合環境の整備などを進めることで、利用者の増加と公共交通の維持・確保を図ります。

有害鳥獣により増加している農作物被害を防ぐため、有害鳥獣の駆除や電気柵などを利用して農作物への被害防止に取り組みます。

原市場地区社会福祉協議会と連携し新たな地域の担い手の発掘を行い、地域の店舗や団体等と連携し、地域の魅力や取り組みを効果的に発信することで、地域に住みたい住み続けたい人を増やします。

事業項目	主な取組
いきいきと住み続けたい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の維持・確保</li> <li>○地域ぐるみの子育て支援</li> <li>○移動交通手段、買い物困難者対策</li> <li>○有害鳥獣対策</li> <li>○林業の再生と自然景観の創出</li> </ul>
魅力ある地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○西川材による商品づくり</li> <li>○特産品開発による魅力づくり</li> <li>○森林を活用した地域の魅力づくり</li> <li>○地域の魅力を生かしたイベントの検討と開催</li> <li>○「食」による魅力づくり</li> <li>○自然・歴史・文化の活用による魅力づくり</li> </ul>

空き家の利活用	○空き家を活用した商店の開設 ○空き家を活用したイベントの開催 ○空き家を活用した居場所づくり
---------	---



原市場地区 「いきいき原市場まつり」

## (5) 名栗地区

### ① 地域特性

名栗地区は、西川材の主要な産地であり、集落は概ね入間川沿いに形成されています。名栗湖、棒ノ嶺、蕨山、有間溪谷、観光釣り場、名栗温泉、カヌー工房、さわらびの湯、ノーラ名栗などの自然、地域資源があり、また、歴史文化遺産としては、下名栗諏訪神社、星宮神社、鳥居観音、名栗川橋、旧名栗郵便局などがあり、豊かな自然、獅子舞やお祭りなど歴史文化を感じる魅力ある観光資源が豊富にあります。

週末に限らず年間を通してハイキングや登山に多くの人を訪れており、温泉やバーベキュー、キャンプを楽しむ家族連れなど、令和3年の地域の交流人口（令和3年）は年間44万人となっています。

一方、心配される要因として、土砂災害や雪害などの自然災害の発生や、高齢化により自動車の運転ができなくなった場合の交通手段の確保、少子化による学校や幼稚園の課題、空き地、空き家の増加などが挙げられます。

強み	弱み	チャンス	脅威
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然が多い。環境が良い</li> <li>○人と人との繋がりが感じられる</li> <li>○観光地であること</li> <li>○キャンプ場など働き場所がある</li> <li>○地域性を重視した行事、伝統がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お店が少ない</li> <li>○交通の不便さ</li> <li>○深刻な高齢化、人材不足</li> <li>○空き家、空き地の増加</li> <li>○子どもの遊べる施設がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旧名栗中学校の跡地利用</li> <li>○空き家、空き地対策</li> <li>○移住対策、テレワークの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然災害</li> <li>○空き家、空き地</li> <li>○暴走行為</li> <li>○名栗小学校、名栗幼稚園の児童及び園児の減少</li> <li>○森林の管理（花粉症対策も含めて）</li> </ul>

### ② 地域課題

急速な少子高齢化の進行により、地域でお互いに支え合う人材の不足が深刻です。また、管理が行き届かない山林や畑などが増加し、景観の悪化や農作物の食害による鳥獣害被害が拡大しているほか、管理されない森林による花粉の増加が問題となっています。人口減少により公共交通の利用者が減少し、公共交通の維持・確保も課題です。人口減少は、公共施設の存続にも影響を与えており、幼稚園・小学校の児童の増加も図る必要があります。また、地域内に存在する空き家の増加が課題となっており、利活用の検討が求められています。

定住環境	自然環境の保全と活用	交流促進	産業振興	情報発信
<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の維持・確保</li> <li>○移動・買物支援</li> <li>○互いに支え合う地域福祉の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然環境を活用した地域の魅力向上</li> <li>○森林景観の維持・管理・活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源（歴史・文化）を生かした魅力ある地域づくり</li> <li>○空き家の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○林業環境の整備と林業の活性化</li> <li>○有害鳥獣対策</li> <li>○遊休農地の活用</li> <li>○雇用の場の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の魅力情報の収集</li> <li>○情報の活用方法の共有化</li> <li>○地域に密着した情報発信</li> <li>○地域情報伝達手段の整備</li> </ul>

### ③ 地域課題への主な取組

地域の交流人口の増加のため、豊かな自然や地域の歴史・文化を生かしたエコツアーやイベントを開催し、路線バスの利用増進や地域の魅力を内外に発信します。

地域の重要な移動手段である路線バスの運行の維持を図るため、地域住民に対するバスへの関心を高める取組を実施します。

豊かな自然環境の中で子育てや少人数による教育ができる特性を積極的に情報発信し、空き家への移住の促進を図ることで、空き家を活用した交流人口増加の取組や移住につなげ、地域の担い手不足の解消を図る取組を行います。

高齢者が住み続けられるよう福祉推進組織と連携し、新たな地域の担い手としての人材を発掘し、若い世代や移住してきた人とともに、名栗地区の魅力を再発見し地域の活性化を進めます。

事業項目	主な取組
いきいきと住み続けたい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の維持・確保</li> <li>○移動・買い物支援の実証実験</li> <li>○児童、高齢者の見守り活動の実施</li> <li>○鳥獣被害の情報収集と追払い事業の実施</li> <li>○自治会活動における地域住民への情報発信</li> <li>○名栗幼稚園・名栗小学校の児童保護者への情報発信</li> </ul>
魅力ある地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業、林業など体験事業の実施</li> <li>○森林を活用した地域の魅力づくり</li> <li>○地域の魅力を生かしたイベントの検討と開催</li> <li>○伝統文化の伝承活動</li> <li>○観光施設（観光事業者）からの情報発信、情報紙発刊</li> </ul>
空き家の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空き家情報の収集</li> <li>○空き家を活用した商店の開設</li> <li>○空き家を活用したイベントの開催</li> <li>○空き家を活用した居場所づくり</li> </ul>

行政編

## 5 行政編

### (1) 「第5次飯能市総合振興計画後期基本計画」等（令和4年度～令和7年度）に基づく市の取組状況

本市では「第5次飯能市総合振興計画後期基本計画」（令和4年度～令和7年度）の基本目標5「新しい時代への自立・協働とイノベーションのまち」の基本施策に「山間地域振興」をあげ、地域の持続的活性化に取り組むとともに「地域公共交通計画」や「はんのうふくしの森プラン」等の個別計画においても山間地域振興に取り組んでいます。

各分野の取組は下記のとおりです。

#### ○交通・買い物支援

重点取組	事業概要
公共交通の維持・確保	地域住民の重要な移動手段である路線バスについて、引き続き交通事業者と連携して補助金の継続や路線の見直し等により路線の維持・確保に努めるとともに、市民による利用促進に向けた取組を支援するなど、市・地域・交通事業者が一体となってバス路線の維持・確保に取り組めます。
移動交通手段、買い物困難者対策の検討	山間地域の重要課題の一つである高齢者の移動手段の確保や買い物支援については、地域資源を活用した移動手段の確保の検討や流通事業者等と連携した買い物支援事業など、地元、企業、団体等幅広い連携の下、地域に適した方策を市・地域が連携・協力して、検討します。

#### ○ICTの活用

重点取組	事業概要
ICTの活用	山間地域のほぼ全域への光ファイバ網敷設により、超高速ブロードバンドを利用できる環境を整備したことから、防災・子育て・健康づくりなどの情報提供や、市への各種申請のオンライン化、公共施設の予約など、ICTの活用による市民の利便性向上を図ります。また、情報通信基盤として公共施設等に設置した公衆無線LANを安定的に運用します。

#### ○未給水地域への対応

重点取組	事業概要
未給水地域への対応	「飯能市山間地域給水施設整備費等補助金交付要綱」に基づき、未給水地域における給水施設の整備等に対し、補助金を交付するとともに、補助金制度の利便性の向上を図ります。また、安全で安定した水量の確保について地域の方と共に検討します。

### ○移住・定住

重点取組	事業概要
農のある暮らしを実現する「飯能住まい」の提供	「飯能住まい」制度による移住・定住を促進するため、地域の自治会等による移住者の受け入れ体制の充実を図ります。
空き家対策	「飯能市空き家等対策計画」に基づき、「空き家バンク」制度の利用促進を図るとともに、空き家の実態把握に努め、管理不全の空き家所有者等に適正な維持管理を促すなど、市民、宅地建物取引業者及び市が連携し、空き家及びその周辺農地対策に取り組みます。

### ○防災・防犯

重点取組	事業概要
安心して暮らせる地域づくり	山間地域の強みである人と人とのつながりの強さを生かした自主防災組織による地域防災体制の強化や自主防犯活動見守りやパトロールの支援充実に努めます。

### ○開発指導

重点取組	事業概要
大規模開発への対応	飯能市開発行為に関する指導要綱に基づき無秩序な開発行為を防止し、生活環境の保全整備を事業者へ促すとともに、「宅地造成及び特定盛土等規制法」（盛土規制法）に基づき、規制区域の検討を行います。

### ○観光

重点取組	事業概要
都市回廊空間から山間地域への人流づくり	メツァ、トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園（飯能河原、天覧山周辺）を結ぶ都市回廊空間から人の流れを、山間地域へと誘導する取組を推進します。
エコツアーによる地域づくり	豊かな自然環境や伝統文化など、山間地域ならではの魅力的で質の高いツアーや訪れるたびに新たな発見や変化のある満足度の高いツアーなど、多くの人を魅了するエコツアーを企画・実施するとともに、市内外に向け、積極的に情報を発信します。 また、山間地域を訪れた方を快く迎え入れるため、ツアー実施主体やツアーガイドなどの人材育成に取り組むとともに、地域の方のエコツーリズムへの参画を支援します。



## ○産業

重点取組	事業概要
サテライトオフィスやSOHOなどテレワークの促進	地域ほぼ全域に整備された光ファイバ網を活用して、山間地域でのサテライトオフィスやSOHOを企業等に積極的にPRするなど、商工会議所等とも連携・協力して、積極的に促進します。
農産加工品づくり、販売促進	地元の農産物等を活用した特産品の開発・販売等を支援します。
「食」による魅力づくり	農林産物加工直売所をはじめとする指定管理施設や学校給食の場において、地場産農産物を極力使用し、地産地消に取り組みます。 地元産ジャガイモを使った商品開発を進め「じゃがチップクッキー」を作製、商品化し、地域の新たなお土産として販売を行っている。

## ○森林づくり

重点取組	事業概要
林業の再生と自然景観の創出	森林文化都市として、「山の繁栄なくして、飯能市の繁栄なし」という思いを持って、森林・林業の再生を関係団体等と連携・協力して検討します。また、「景観は創り出すもの」との認識を、市・事業者・山林所有者・市民等が共有し、災害対策や水源林の涵養を含め、自然景観を整備・創造・保全するための仕組みを検討します。
西川材による商品づくり	地域の方が開発・作製した西川材製品を「飯能ブランド」として磨き、育て上げるとともに、販路拡大を支援します。
森林と木材を活かしたまちづくり	森林サービス産業をはじめとした、森林をフィールドにした新たな産業の活性化を推進します。 森林と木材に関する情報発信と交流活動の推進を円滑に行うための新たなプラットフォームの設置を支援します。

## ○有害鳥獣対策

重点取組	事業概要
有害鳥獣対策	有害鳥獣による被害は、地域にとって深刻な問題となっており有害鳥獣対策事業の充実や捕獲体制の整備等に取り組みます。鳥獣被害対策講座で正しい知識の習得と自己防衛意識の高揚を図っていきます。

## ○地域福祉

重点取組	事業概要
地域生活課題の解決に向けた取組の充実	いつまでも山間地域に安心して住み続けられるよう地域の状況や特性に合わせた地域活動を行う地域福祉推進組織への支援や包括的支援体制の構築等地域生活課題の解決のための仕組みづくりを進めます。
地域の居場所などの交流の場づくり	南高麗福祉センター、原市場福祉センターを福祉活動や交流の場として提供するとともに、多くの方々に地域との関わりが生まれるよう活動や取組の周知を図ります。
コミュニティソーシャルワーカーの充実	各地区にコミュニティソーシャルワーカーを配置するため社会福祉協議会に補助金を交付し、支援を必要とする一人ひとりに対する地域に出向いた個別支援と、多様な場・居場所づくりや地域活動等のコーディネートといった地域支援の充実を図ります。

## ○子育て

重点取組	事業概要
地域ぐるみの子育て支援	子育て世代が、山間地域で安心して子どもを産み、育てられるよう、地域の団体や組織等との連携を図り、地域全体での子育て支援に取り組みます。

## ○不法投棄

重点取組	事業概要
不法投棄対策	市民や事業者、警察などと連携した不法投棄の監視体制の維持や監視パトロールの実施や不法投棄禁止看板の設置など防止対策の充実を図ります。

## ○教育

重点取組	事業概要
山間地域の特性を生かした教育の推進	学びの改革を進める中で、飯能市 GIGA スクール（ICT を活用した学び）の推進や小規模特認校制度の活用、恵まれた自然環境や少人数の良さを生かした教育、グローバル社会に対応するための英語教育の推進や外国人との交流など、それぞれの学校が特色のある教育を実践し、山間地域の学校ならではの教育を推進します。
学校規模適正化の検討	学校は、地域に根差したシンボリック的存在であり、地域に希望を与える施設です。しかし、少子化に伴う児童生徒の減少により、今後の学校の在り方についての検討が必要となっています。小・中学校の規模適正化に向けた庁内検討委員会の設置と保護者や地域との協議を進めていきます。

## ○スポーツ

重点取組	事業概要
新たなスポーツイベントの検討と開催	本市の豊かな自然、地形を生かしたトレイルランニングやサイクリングなどの新たなスポーツイベントを検討するほか、本市の新たな魅力づくりや山間地域の活性化に取り組みます。

## ○生涯学習

重点取組	事業概要
地域との連携による生涯学習の推進	生涯にわたり学び続けられるようリカレント教育を推進し地域や関係団体との連携、協働による生涯学習機会の充実を図るとともに、各世代のニーズや地域特性に合わせた学びの提供を進めます。

## ○地域づくり

重点取組	事業概要
地域の未来を担う子どもたちや地域の方へのシビックプライドの醸成	山間地域に生まれ育った子どもたちや地域の方々が地域に誇りや愛着を持ち、そして地域を思う気持ちを育くむ取組を地域と連携・協力して実施します。
自然・歴史・文化の活用による魅力づくり	豊かな自然環境、歴史、伝統文化など、山間地域ならではの地域資源や魅力を掘り起こし、魅力づくりに取り組み、市内外に発信します。
廃校舎の活用による賑わいづくり	吾野地区、名栗地区にある廃校舎の跡地利用について、地域住民等との合意、連携を図りながら、取り組んでいきます。
地域おこし協力隊活用の検討	地域課題を解決するためには、多くの人の知識や経験を生かすことが必要です。また、過疎化と高齢化が進む中、地域のマンパワーとして一人でも多くの人材が必要となっています。山間地域の定住環境整備や課題解決に取り組む人材の確保を目指し、「地域おこし協力隊」制度の活用等を検討します。

## 資料

4 飯市協発第 3 6 9 号  
令和 4 年 8 月 2 日

飯能市山間地域振興審議会  
会長 熊 田 俊 郎 様

飯能市長 新 井 重 治

#### 第 4 次飯能市山間地域振興計画（案）について（諮問）

第 4 次飯能市山間地域振興計画（案）について、飯能市山間地域振興審議会条例第 2 条の規定により、貴審議会の意見を求めます。

令和5年 1月31日

飯能市長 新井重治様

飯能市山間地域振興審議会  
会長 熊田俊郎

#### 第4次飯能市山間地域振興計画について（答申）

令和4年8月2日付け4飯市協発第369号で諮問のありました、第4次飯能市山間地域振興計画（案）については、慎重に審議した結果、妥当であると判断します。

なお、本審議会の意見、要望は、下記のとおりですので、計画の推進に当たっては十分に配慮されるよう要望します。

#### 記

- 1 第5次飯能市総合振興計画を補完し、はんのうふくしの森プランをはじめとする関係個別計画と連携したうえで、これまでの計画を踏まえ、総合的な地域振興を図っていただきたい。
- 2 地域の魅力を市内外に発信し、地域のイメージアップを図り、地域への来訪者の増加を図っていただきたい。
- 3 若年層が住みやすいと思える施策を行っていただきたい。
- 4 定住人口対策として、地域の環境整備と空き家の利活用など行政としての取組強化と地域で取り組む様々な活動へ更なる支援強化をお願いしたい。
- 5 林業の再生と地域コミュニティビジネスを発展させ、地域経済の好循環につなげていただきたい。
- 6 山間地域の自然景観の保全と乱開発の抑制を図り、災害に強い地域づくりを進めていただきたい。
- 7 高齢化を迎え地域ケア体制の構築を図り、住み続けられる地域づくりを目指していただきたい。

飯能市山間地域振興審議会委員名簿

(敬称略)

区 分	所 属	氏 名	備 考
学識経験者	駿河台大学名誉教授	熊 田 俊 郎	会 長
知識経験者	飯能市自治会連合会南高麗支部長	木 崎 稔 生	
	飯能市自治会連合会吾野支部長	加 藤 孝 雄	
	飯能市自治会連合会東吾野支部長	栗 原 典 夫	
	飯能市自治会連合会原市場支部長	青 木 茂	
	飯能市自治会連合会名栗支部長	町 田 靖	
	地域包括支援センター運営協議会長	大 野 康	副会長
	飯能商工会議所	中 村 晶 代	
	一般社団法人 奥むさし飯能観光協会	影 山 理 恵	

## 第4次飯能市山間地域振興計画策定経過

日付	内容
令和4年3月 1日(火) ～3月 25日(金)	第3次飯能市山間地域振興計画における支援事業推進 団体等の活動状況に関するアンケート実施
6月 29日(水)	第1回 庁内策定委員会
8月 2日(火)	第1回 山間地域振興審議会
9月 21日(水)	第4次飯能市山間地域振興計画策定に係る地区懇談会 【南高麗地区】
9月 22日(木)	第4次飯能市山間地域振興計画策定に係る地区懇談会 【吾野地区】
9月 26日(月)	第4次飯能市山間地域振興計画策定に係る地区懇談会 【名栗地区】
9月 28日(水)	第4次飯能市山間地域振興計画策定に係る地区懇談会 【東吾野地区】
9月 30日(金)	第4次飯能市山間地域振興計画策定に係る地区懇談会 【原市場地区】
11月 11日(金)	第2回 庁内策定委員会
11月 22日(水)	庁議 計画素案について
11月 29日(火)	第2回 山間地域振興審議会
12月 1日(水) ～12月 20日(火)	第4次山間地域振興計画(案)に関する市民意見募集 実施
令和5年1月 23日(月)	飯能市議会基本条例第9条第2項に関する協議
1月 31日(火)	第3回 山間地域振興審議会





吾野地区 吾野地区行政センター周辺

## 第4次飯能市山間地域振興計画

令和5年4月 発行

発行 埼玉県飯能市  
編集 飯能市市民生活部市民協働推進課  
〒357-0021  
飯能市大字双柳1番地の16  
TEL (042)972-3314  
(富士見地区行政センター内)